

21世紀へ住民が主人公の 新しい愛知を労働者の力で

(愛労連・知事選挙方針)案

<はじめに>

戦後最悪の不況、雇用の崩壊がすすみ、労働法制が改悪されたもとで労働者・労働組合にとって99年春闘はまさに正念場を迎えています。

連合は資本に屈服し、春闘をとりやめ賃金要求を放棄する方向に足を踏み出しました。愛労連は、未組織の労働者の要求も含め、総対話と共同を大きく広げ「不況打開、くらし・雇用・福祉を守る」総行動を全組合員の参加で春と秋に取り組んできました。

こうした運動の広がりや確信のなかで、春闘と同時期にたたかわれる2月7日投票の愛知県知事選挙では、不況打開、雇用の確保、大幅賃上げと時間短縮や最低賃金制の確立など労働者の要求を全面にかけ、その実現をはかる選挙としてたたかいます。

県民のいのちと暮らしを守るため春闘と知事選挙を一体のものとして、勝利めざして愛労連の組織の総力をあげて知事選挙をたたかい、つづく4月の一斉地方選挙では、行政改革・規制緩和を阻止し、公的介護保障制度の確立、住民本位の地方財政の確立など住民が主人公の自治体づくりをめざして奮闘します。

1. 私たちの10大要求

(1) 不況打開のため消費税減税の実現。地域経済の振興と中小企業の経営安定をはかる。「整理解雇の4要件」に違反する企業の一方的な解雇を県内から一掃するなど雇用の確保と安定をはかる。

(2) 大幅な賃金のひきあげ、必要な増員のうえ完全週休二日制の実施。全国一律最低賃金制の確立。県人勧の「凍結」反対。

(3) 企業のリストラ「合理化」や、改悪基準法の職場持ち込み反対。労働者の生活と権利擁護、職場に自由と民主主義を確立する。

(4) 大企業・ゼネコン本位の大型公共事業をやめ、県民の立場にたった自治体財政危機の打開。財政危機の県民・職員への転嫁反対。農・林・漁業を守り発展させる。

(5) 万博から海上の森をはずすなど計画の抜本的見直し。中部国際空港は計画を抜

本的に見直し、県民合意を前提とする。藤前干潟の保全とゴミ問題の解決。

(6) 国・地方の行財政改革・規制緩和に反対、自治体リストラをやめさせ、地労委など公平・公正な労働行政の確立。

(7) 介護保障制度の確立、医療の連続改悪阻止、年金の拡充、社会保障の拡充。

(8) 複合選抜制度の抜本的見直し、30人学級の実現、私学助成の継続などで全国最低水準の愛知の教育を充実させる。

(9) 情報公開をすすめ、憲法と地方自治・平和を守り新ガイドラインを阻止する。

(10) 自民党の悪政に反対し、県民の立場でものをいい県民の声をいかす県政実現。

*上記の10大要求と合わせて、単産・地域の要求を具体化する。

2. 闘いの意義と展望

<たたかひの意義>

(1) 半世紀にわたる大型開発、大規模な施設建設、ゼネコン政治を根本から転換し、福祉・教育は全国最低水準という県民にとって最悪の状態から脱却することを望む県民の声に愛労連としてたたかって応える。

(2) 県債(借金)が年間予算をうわまわる2兆6000億円、県民一人あたり37万円余の負担となっている破綻した県財政を県民の立場にたって再建する。

(3) 愛労連が先頭にたち、選挙戦を通じて悪政に立ち向かう共同を拡大し、これをささえる強大な愛労連・地域労連をつくる。

(4) 愛知県政を転換することと合わせて「住民が主人公の自治体」を県内に多くつくり、21世紀は国政革新という流れを確実なものとする。

<たたかひの展望>

(1) 「オール与党」による自民党県政の継続が、福祉の充実をはじめとする県民の要求に長いこと逆行してきました。鈴木知事は11月4日「財政危機・非常事態宣言」を発しましたが「なぜそうなったのか」「だれがそうさせたのか」など、責任の所在を一切明らかにせず、県職員と教職員の大幅な削減、市町村への補助金とりわけ医療、福祉など県民の暮らしに直結する予算の30%カットなど県民犠牲で財政危機を乗り越えようとしています。

こうした状況は、市町村財政を大きく圧迫し、これまで「保守」と見られてきた人々も立ち上がらざるを得ない状況に直面しています。県政の実態を率直に訴え県民本

位の立場からの財政危機打開の方向を示してたたかえば必ず多数の支持を獲得することができます。

(2) 今年4月の京都府知事選挙で現職知事への肉薄、3月の木曾福島町長選挙、7月の東大阪市長選挙ともに勝利したことにみられるように、住民が主人公の自治体を求める流れは一層、大きく確実のものになりつつあります。愛知でも扶桑町につづき清洲町、八開村で「革新・民主」の首長の誕生として実を結んでいます。

また、県内の8割を越す自治体で住民のくらし・福祉を切り捨てる「地方行革・自治体リストラ」が強行されていますが、96年から97年にかけて「住民が主人公の自治体」を求めて住民・諸団体、無党派層のみなさんと日本共産党が共同してたたかわれた首長選挙は岡崎、豊橋、蒲郡、岩倉、名古屋、西尾、知多、一宮と大きく飛躍しています。今年、西春町、阿久比町、稲沢市、甚目寺町へと広がり、この流れこそ勝利の展望を示していると言えます。

(3) さらに、7月の参議院選挙で「政治は変わる、変える事ができる」ことが県民の確信となっており「無党派層」といわれる国民の中で、「自民党ノー」は圧倒的多数となっています。こうした4年前とは大きく異なる県民に有利な世論のもとでの知事選挙です。県民が主人公の県政に転換しようとの要求で一致する共同が目に見えてすすめば大きな流れを一挙につくり出せる事は間違いありません。

私たちは、89年の名古屋市長選挙で消費税導入に反対して竹内平氏を候補にたたかい、43.8%の得票で「オール与党の現職候補」にあと一步と迫り、結果として竹下内閣を退陣に追い込んだ「消費税選挙」の経験を持っています。国政との関係で見れば、この愛知県知事選挙勝利で小淵内閣を包囲して「不況打開、雇用と営業を守れ」の要求実現の展望を開くことができます。

3. 知事選をめぐる情勢の特徴

(1) 「オール与党」の4か月間混迷をどうみるか

①一宮市長の神田氏を知事候補とすることで「オール与党」がようやく一本化しました。この間の迷走の原因は明確です。参議院選挙での自民党の惨敗は、自民党政権の基盤が歴史的崩壊の過程を示し、これに加え自らのゼネコン優先の県政が破綻し、鈴木知事は展望を失い県政を投げ出す事となりました。県民は、国政も県政もムダな開発型の大型公共事業をやめ、暮らし・医療・福祉などの国民生活優先の政治へと流れを変えたいと求めています。こうしたもとの、一方では「オール与党でない」と知事選挙に勝てない、もう一方では「自民党と手を組むと総選挙で勝てない」という矛盾

が4か月の混迷となって現れたものです。

銀行への60兆円の税金投入、大企業と金持ちだけの減税、党利党略の商品券、とどまるところを知らない大型開発など、自民党政治に国民の怒りは噴出しています。

その結果が阿久比町長選挙の勝利となり、西春、甚目寺、稲沢の首長選挙にも顕著に現れています。その上、政策抜き、県民抜きの密室での候補者選別に県民の批判はさらに広がっています。

②神田氏は9年間も一宮市長を勤めた人物であるが、ツインタワーに54億円、競輪場のバックスタンド改修に37億円、駅東地下駐車場に53億円を投入し、萩原工業団地では、大企業5社に15億円も土地代をまけるなど「ビッグプロジェクト」を次々と進めてきました。地下駐車場によって、年間1億数千万円の赤字が永久に続くと言われていました。市の借金を614億円にふくらませた、文字どおり鈴木県政と同じ流れを推進してきたのがその特徴です。

また、全教大会の時に「市民会館の使用を取り消す」という態度をとり、民主主義と人権を擁護すべき弁護士としては失格と言わざるを得ない。

このような首長では、自民党政治いいなり、ゼネコン型大型開発優先、財界いいなりの県政が一層、加速されることは間違いありません。4か月も混迷を続けた果てに、こうした人物でしかまともなまなかった事に、まさに県民不在の本質があらわになっているといえます。

(2) 影山健氏の立候補は「政治の流れを変えよう」の県民がつくりだしたもの

①長年つづいた財界いいなり、大型開発優先、県民犠牲の「オール与党」県政は、2兆6千億円の借金と財政危機をうみ、1050億円の歳入不足に鈴木知事は「財政非常事態宣言」を発表。県民生活に関する予算の切り捨てを全面にだしていますが、万博、新国際空港建設を事実上、聖域としています。しかし、新聞社の世論調査では万博・空港の推進よりも見直しが上回っているし、県政モニターでも21世紀の愛知づくりで県民の願いの第一位は「福祉や保険医療の充実(53.9%)」、第二位は「環境問題への対応(41.5%)」です。

「革新県政の会」と海上の森の万博に反対してきた市民グループ「海上の森に万博はいらない!あいちの会」が共同して進む方向は「政治の流れを変えよう」と求める県民世論がつくりだしたものです。

②参議院選挙とその後の中間選挙の結果から「政治を変えることができる」という確信が強まっています。前回の知事選挙で徳田候補25万、牧野候補24万、参議院での日本共産党・八田候補が45万という一連の結果ですが、共同の流れを太く大きい流れに発展させれば県民の勝利は可能との確信を生み、この声が県民運動の先頭に

立って来られた無党派の影山健氏を候補者におしあげました。

71年の知事選挙では新村候補が桑原候補に10万票までに迫ったが、名古屋市内では逆に10万票上回った。今日、都市でも農村でも、これまで保守の地盤とされてきたところで雪崩をうって自民党離れが進んでいます。70年代には無かった条件によって勝利の可能性は一段と高まっています。

(3) 共同を大切にし、政治の流れを変える活動にみんなで参加を

①影山候補は「革新県政の会」の臨時総会(11月4日)で決意を表明し、つづく赤旗祭り(11月8日)では全会場をまわった上で、中央舞台に立ち決意と政策を語りました。12月11日の県民集会で帰国第一声の訴えを行います。

②「県民集会」には「あいちの会」の代表が連帯の挨拶を行い、19日の「あいちの会」の決起集会には「革新県政の会」の代表が参加します。全戸配布のビラの共同作業も進んでいます。この努力を継続するとともに「革新県政の会」の独自のとりくみをつよめ、勝利の展望を切り開くことが求められています。

4. 知事選にのぞむ愛労連の基本

(1) 自民党政府の「逆立ち政治」に追随・加担してきた「オール与党」県政のゆきづまりと破綻を、共同の力で県民本位に打開するため、必ず勝つ意気の高い積極的なたたかいをすすめます。

(2) 99年国民春闘の勝利と一体のたたかいと位置付け、労働者の春闘要求組織とあわせて選挙をたたかい労働者・県民の要求実現をはかります。

(3) 地域労連は共同を思い切って広げ、名古屋市内だけでなく三河、尾張、知多など、全県的なたたかいをすすめます。

(4) 主権者として全組合員がたたかいに参加し、職場から政治の風をふかし、「県政の会」の一員としての役割を果たします。

5. たたかう体制

(1) 労働者・労働組合の政治的中立論を克服し、職場で討論し要求を出し合って要求実現のたたかいに徹して、すべての単産・単組、地域労連がたたかいに参加します。

(2) 「県民が主人公の県政」の実現で、雇用確保、くらし・福祉・教育の充実、職場の民主主義の確立をはかるために、労働者・労働組合へ申し入れるなどして、総対

話と共同をすすめる労働者の過半数の支持を目指します。

(3) 地域労連は各行政区ごとの活動をめざし、地域連絡会に結集して積極的な役割をはたします。

(4) 愛労連は、春闘共闘などとともに「県民本位の県政をつくる労働者・労働組合連絡会(仮称)」をつくり、幅ひろい活動をすすめます。

・呼び掛け人を募り、12月14日に発足します。

・労働者・労働組合連絡会には、すべての単産から参加します。

・労働会館の会議室を借りて「連絡会」のセンターをつくります。

・臨時電話を設置します。

(5) 青年連絡会の活動を保障します。

(6) 女性連絡会の活動を旺盛にすすめます。

(7) 「革新県政の会」へ役員を派遣します。

(8) 闘争財政の確立のため、組合員一人500円の選挙任意カンパを取り組みます。

・期間は、年末一時金をふくめ1月末までに完納とします。

6. 当面のとりくみ

(1) 全労働者を視野に置いた宣伝と対話を重視します。

・候補者の人柄と基本政策を紹介するビラを組織内に配布し、たたかう意思統一と体制づくりをすすめます。

・全単産・単組、すべての地域で影山候補の支持・推薦決議運動を取り組みます。

・12月中(年末まで)に共同の全戸配布ビラ180万枚を配りきります。

・影山候補への支持拡大は労働者の過半数を獲得目標とし、5連カードなどを活用します。

・愛労連以外の労働組合へ共同の申し入れ活動を強め、政策と候補者を紹介し、推薦を依頼します。

(2) 選挙で何が問われているか、県政の実態はどうなのか全組合員へひろげ学習を無数に行うなかで活動参加を訴えます。「県政の会」の基本政策パンフなどを大量に活用します。

・それぞれの分野と地域でシンポジウムを計画します。

・藤前干瀉の住民投票条例を求める署名運動を成功させます。(12月13日までの期限で名古屋市内在住の組合員は受任者になるなど、緊急に署名協力に応じます。)

(3) 県民集会の成功を目指します。

- ・12月11日(金) 18:30から勤労会館を埋めつくします。
- ・単産・地域労連は参加目標をきめ、組合員に声をかけあいます。

(4) 「連絡会」の活動(結成後に話し合ってきめる)

- ・12月24日(木) 「消費税10周年・知事選挙勝利」クリスマス 大宣伝行動を県内主要ターミナルで行います。(早朝を基本とします)
- ・1月14日(木) 告示一週間前、知事選と99春闘勝利に向けて大企業門前・労働者宣伝行動を行います。(労働者むけビラ)
- ・1月11日～1月20日まで単産・単組のもっている宣伝カーを総動員して全県キャラバン宣伝を実施します。

県段階の宣伝カーを利用し、全県・地域の激励・宣伝行動

- ・宣伝カーによる全県キャラバン宣伝に呼応し、重点地域を決めて企業・事業所を対象とする申し入れ、アンケート活動に取り組みます。

(5) おもな日程

- ・12月11日 「県民大集会」 午後6時30分 愛知県勤労会館
- ・12月11日以降、「あったか県政の会」の第1回、全戸配布ビラ
- ・12月14日 「県民本位の県政をめざす労働者・労働組合連絡会」発足総会
- ・12月16日 「革新県政の会」事務所開き 午前10時
- ・12月23日 愛労連第20回臨時大会 午前10時 「サン笠寺」
- ・1月 4日以降、「あったか県政の回」の第2回、全戸配布ビラ
- ・1月 9日 愛労連99新春大学習会 午前10時 「産業貿易館」
- ・1月15日 知事選挙・99春闘勝利地域労連代表者会議 午後1時30分 場所未定 単産代表にも参加を要請します。

(6) 告示以降のとりくみ

告示以降は、①電話作戦を中心とする総対話、支持拡大、②法定ビラ配布、③春闘要求とあわせた「要求宣伝」、④県体育館の1・27大演説会を成功させる、を基本に全力で取組み、影山当選に労働者の底力を発揮します。

- ・1月21日 県知事選挙・告示
- ・1月27日 「革新県政の会」・大演説会 午後6時30分 県体育館
- ・2月 7日 県知事選挙・投票日